

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 11 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104898		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・高陽		
所在地	〒739-1732 広島県広島市安佐北区落合南七丁目10番20号 (電話) ①082-841-5670 ②082-845-2050		
自己評価作成日	令和1年10月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104898-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和1年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で毎日を穏やかに過ごしてもらえるようサポートし、利用者、家族、ホームの三者にとって良い環境を作る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

今年8月にユニット異動で新管理者になった事業所の特徴的な取組みとして、「本人と共に過ごし支えあう関係」「本人を共に支えあう家族との関係」の深化がある。即ち、「当たり前のことを当たり前にする」を目標に、当たり前の生活作りに取り組んでいる。身だしなみ一つをとっても「日々のその人らしい暮らし」を作るため、「365日の中で特別な事も含め、日常を展開するための支援」に努めている。管理されたケアより少しの「ゆとりや遊び」を内包した関わりと持つことで「心配そうな顔をしている利用者がいない」「誰かがどこかで笑っている」日常を目指している。ユニット毎に異なる食への関わり等、多様なアプローチで「自分ならこうしてほしい」「7割方の人がこんなものだろう」と折り合える事業所作りに利用者・家族と協力して歩んでいる。
--

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	会社理念の下、ホームでの介護目標を掲げ利用者、家族へも安心して過ごして頂ける様、運営をしている。	法人理念を基に事業所独自の目標を策定している。法人の今期スローガンの下、介護事業部のサブスローガンも策定され、各事業所で検討した内容を全体で協議して目標とし、年度末の職員会議で振り返りを行う。今期の「誰かがどこかで笑っている」を所内に掲示し、新管理者の下、「当たり前の生活作り」に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などで民生委員、包括の方より情報提供を受け、地域の祭りや行事、地域清掃の案内を受け参加している。また避難訓練への参加など無理なく少しずつ取り組んでいる状況である。	日頃から散歩等で地域住民と挨拶を交わしたり、町内会に加入し町内清掃等への協力やとんど祭り等の地域行事に利用者と参加している。又、事業所での避難訓練に地域住民の参加や傾聴ボランティアを受け入れる等、相互交流も行っている。秋祭りの子ども神輿の訪問等を通じた世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方への発信に関しては乏しい状況ではあるが近隣事業所との繋がりはできており家族を通じホームへの相談等はある状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出席された民生委員、地域包括支援センターより、他事業者の状況や近隣の高齢者及び地域状況の変化、災害時の避難方法及び対応、その他の意見・助言を伺いながらホーム運営に活用している。	会議は定期的開催され、民生委員・地域包括支援センター職員が毎回、時に地区副代表等の地域住民・利用者・消防署職員が参加している。会議では事業所の現況・事故報告や相互の意見交換が行われ、その意見交換の中で減災対策として新しい5段階警戒レベルの活用等の助言を受けた経緯がある。	参加者の意見が運営に一定反映されているが、家族の参加はなく活発な意見交換の場とは言い難い。不参加家族との事業所運営に関する情報共有が不十分な面がある。今後は家族の参加促進や議事録閲覧体制の整備や議事録の送付案等、会議活性化に向けた取組みを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	困難ケース、苦情等あれば報告、相談を行った実績はある。また、生活課などとも利用者の状態の変化があれば担当者とも相談している状況である。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回参加し情報共有を図っている。又、市町とは日頃の相談・連絡や運営推進会議の開催報告書等の提出や虐待防止等の研修参加・認知症サポーター養成研修の受け入れ等を通じ連携強化を図っている。生活保護の利用者に対し生活課職員の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会の開催、身体拘束、虐待研修も年1回、全スタッフ対象に開催している。	研修会等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し、声掛け等、具体的なケアの中で実践を重ねている。日中は玄関を施錠せず見守りをしたり赤外線離床センサー・鈴等を設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。定期的に身体拘束委員会を開いて事例検討等を行い現在拘束例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回の研修の実施、委員会での検討結果、報告も行いながらスタッフの意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度等の研修は行っていないが、利用者に必要な状況が発生すれば、活用の案内など行っていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、家族や本人の不安や疑問を解消するよう希望、質問などに答え、解約時も同様に安心して繋がる説明をするよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に意見、要望、苦情などの窓口の設定状況など説明を行っている。また、面会時や、ケアプランの更新の際にも要望等について何うようにし、本社よりアンケートも実施している。	利用者の意見は日々の会話の中で、家族とは面会・介護計画見直し時・法人によるアンケート調査等を介して管理者他が把握する様に努め、実現に向けた支援を行う。利用者の声で職員とのカープ観戦や夫の命日に部屋での晩酌を実現し、家族の要望で排泄用品の変更や歩行支援で対応した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議、その他の場面での意見等あれば管理者会議などで要望として伝えている。	毎日の申し送り、毎月のユニット別会議・広島市域事業部の管理者会議や随時の個別面談等を通して意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。利用者が買い物外出で買った煎餅を食べる時、職員の提案で長らく使っていなかった義歯を再利用できた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者会議等、上司との面談などで要望の収集など意見を訴えていく場面は設定してもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの教育システムは出来ていないが、外部研修などでスタッフの希望、必要性を考慮し、対AIPPに向けて介護福祉士実務者研修、認知症介護基礎研修受講を勧めるなど対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	入居相談等を通じ近隣の事業所などのネットワーク、相談等行っている状況である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際には、本人の状態変化を考慮しながら、本人、家族に意向を伺い、プランへ反映している。		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居の面談の際、またはサービス計画作成、更新時、面会の際などでご要望等聞きながら協力できる事があれば行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居前の事前調査により、どのような経過で、何を望んでホームへ入居になったか、また入居後はどのような対応を希望されるのか、どのような事が起こる可能性があるかもスタッフへ周知対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>生活の場という意識を持ち、職員が全ての事を行うのではなく、部分的にも関与してもらえるよう声かけ、協力を依頼しながら過ごしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会や外出など、頻繁に来られる家族もいるが、諸事情によりなかなか来られない家族もおられる。ホーム、家族が共にという面では、まちまちであるが、それぞれの家族事情を考慮し、出来る範囲で無理のない関係性を維持している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族の相談、了解があれば対応している。基本的には制限はない状態になっている。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を重視し、買物に行っていたコンビニの店員から声を掛けられたり、ドライブがてら自宅に立ち寄る等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。携帯での会話や毎月の事業所便りも利用者自筆の一言を添えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者それぞれの性格を把握した上で、それぞれの関係を観察しながら場合によっては調整し、出来るだけ個々に適した環境設定を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居の際には何か相談があればいつでも対応しますとお伝えし関係性を維持するようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訴えのできる方には可能なかぎり、本人本意で、そうでない方には家族へ聞いたり、本人に必要な援助を検討し行っている。	利用開始時に利用者の習慣や好み等の情報を収集し、その後はその方の気持ちに寄り添いながらゆっくり話す時間を作り行動を理解する様努め、申し送り等で共有している。片麻痺により意思表出困難な方のズボンをテーブル端に被せる行為が実はズボンのゴムを緩めようとしたものだった例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前調査の情報、家族との話しの中、また本人との会話から知り得た情報を会議、日常業務で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにより、ある程度は把握できているが、常に変化をしていくものなので日常の状態観察、申し送り、会議にて共有し、場合により必要であれば対応を柔軟に変えている。		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族に改めて希望、意向をお伺いしプランを作成、同意を得ている。その他、更新の際は面会時などで意向をお伺いし、協力医、介護スタッフの意向や意見も聞きながらプランを作成している。</p>	<p>アセスメント・家族の意向を踏まえ計画作成担当者が原案作成、家族の面会時に説明し同意を得て本案としている。計画作成担当者がモニタリングや計画の見直しを基本3か月毎に行う。利用者の意向を踏まえ家族の協力の下、大型商業施設に毎月外出し、好きな買い物やグルメを楽しむ例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様子、変化については個別記録、申し送りへ記載し対応を変更する場合も申し送り等を活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>歯科往診、傾聴ボランティア、民謡の会などのサービスを導入し、また季節の行事にも触れ合っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の民生委員、家族、同一グループなどの力も借りながら運営を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>常時本人状態が把握できているため、対応がスムーズに行える利点から、協力医療機関(内科)への主治医変更をお願いしているが、家族の希望であればそのままの主治医で対応している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。内科協力医からは月2~3回往診があり、専門医の受診は事業所又は家族の協力による。医療連携にて月2回の訪問看護師の来訪による健康管理や協力歯科医の往診もあり、安心して医療を受けられる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2週1回の訪問看護の際に各ユニットの入居者の状態、対応について相談するようにしている。また内科往診の際にも同席した看護師と情報の共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにより情報提供を行っている。また入院時にホームの窓口もお伝えし早期の退院、退去などあれば一緒に検討をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	基本的には常時、医療行為があった場合には継続的にホーム利用は難しく、終末までの対応はできないと入居前、入居時には伝え理解いただいている。	利用開始時「医療的な対応・看取りに関する指針」にて基本的方針を説明し了解を得ている。「看取り」は行わないが、重度化した場合に備えて入所・入院に向けた支援に取り組む方針である。重度化した際には指針に基づき本人・家族等関係者で話し合い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習は全スタッフが受講し、適切な連携をどうとるかなど、対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練、1回の災害訓練を実施している。うち1回は、近隣住民の方と夜間を想定した合同避難訓練を実施し、災害時には応援をいただくことをお願いしている。また、スタッフにも災害時の避難場所、連絡網、持ち出し物、マニュアル等について周知している。	消防署立会いも含め、夜間想定や利用者・近隣住民も参加して年2回の避難訓練と年1回の災害訓練を行っている。運営推進会議等で口頭にて地域に災害時の一般的な協力要請を行ったり、利用者と避難所を確認しに行ったこともある。必要最小限の備蓄整備や法人支援による分散避難体制もある。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人一人の思いや、現状態、事情を把握したうえでその方に合った個別の対応を心がけている。	研修で職員の幅広い知識の習得を図る体制もある。排泄時等のプライバシーについても職員は利用者目線で対応し不適切な対応には指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。個人情報への配慮と共に利用者とも「いつかうまくいく関係作り」に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の訴えや希望を、可能な範囲で対応できるよう心がけており、決定時は自分の判断で選択し実現を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームの体制や状態も加味しつつ、利用者の希望や過ごし方なども柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	カットや髪染め、パーマ、また化粧品の購入など、ご本人や家族と相談しながらご本人の意向を出来るだけ反映するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生会のお寿司、季節感のあるバーベキュー、そうめん流し、またその日に食べたいと希望があれば出来る限り対応している。一緒に調理が出来る方は無理のない程度で、盛り付け、食器洗いを一緒に行っている。	第一ユニットは三食手作り、第二ユニットは外注食を主に月に数回手作りの日を設けている。利用者の食習慣を考慮した対応や誕生会やおやつ作り他で好みを反映し利用者も役割に応じた協力を行っている。畑で取れた野菜が食卓に上ったり、工夫を凝らした行事食や外食グルメツアーも好評である。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	主食、副食の形態、ダイエットの必要な方は量などを調整するなどして提供している。また状態、個々の習慣、嗜好も配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは義歯の方も含めて基本的には毎食後に実施し、歯科往診も必要な方には受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ誘導を基本として対応し、水分量や排泄状況に応じ、内服の変更、誘導のタイミングも配慮している。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握している。排泄の自立支援として入院中の紙おむつから紙・布パンツへの移行や日中は布パンツ、夜間は紙パンツ対応等がある。又、トイレに跳ね上げ式前方手すりや夜間排泄時の転倒防止の為、ベッド周辺に赤外線離床センサーの設置等の環境整備もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や水分、日々の献立、運動や体操また往診時内科医に相談して服薬、坐薬で調整するなど、できるだけ便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴のタイミングや時間など配慮はしている。順番など希望を聞いてできる範囲で配慮している。	週3回の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者負担を考慮しシャワー浴等に対応することもある。据え置き式家庭浴槽で浴槽に移乗し易い入浴台等の環境整備や冬の柚子湯も好評である。風呂嫌いの方には波長合わせで対応している。	

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中、夜間の睡眠状態を見なが ら内服のタイミング、誘導方法も スタッフ間で共有しながら対応し ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬状況がわかるようファイル に閉じ、スタッフがいつでも確 認できるようにしている。内服 の増減もスタッフ周知し、往診 時のDrに様子を伝えながら調 整をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>個々の状態にあった対応を心 がけ、本人の嗜好や要望にも最 大限配慮している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>職員の体制的にその日に対応 できないことも多いが、季節の 花見、紅葉狩りなど会議の際 に検討し、機会を設けて対応 している。家族へも希望があ れば面会の際にお伝えしてい る。</p>	<p>日頃から散歩や買い物等を少 人数で楽しんでいる。毎年恒 例の初詣・花見・紅葉狩り等 の他、個別的な外出支援にも 取り組み、好きなカーブ観戦 に職員も同行したり、家族の 協力で半日の里帰り等もある 。とんど祭り・敬老会等、平 常は行けないような地域行事 に参加し「非日常」を楽しむ こともある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>紛失のリスクを家族に説明し、 基本的には所持されていない が、金銭に対しての思いが強 い方や家族の希望があれば 可能としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(高陽①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族への連絡を希望される方は電話、連絡(電話)が入った際には希望があれば、本人と変わってお話をしてもらっている。また、出来る方は手紙のやり取り携帯等ももっておられ活用されている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁画や季節の飾りなど季節ごとに変化させている。またその他の環境面等もシンプルで落ち着いた色調にしている。</p>	<p>室内やベランダのプランターに咲く草花や正月・クリスマス他、季節行事の飾り付けや利用者とする花紙丸めの干支等の「壁掛け作品」で季節の移ろいを感じられるよう努めている。フロアにはアイランドキッチンが配置され、利用者も食事作りに関わりやすく、食における音や匂いを感じられる環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自分の席やソファなど各自一人で過ごせる場所は確保できている。人間関係を配慮しなるべくストレスが少なく、導線の良い環境を心がけている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的には持ち込みの制限はなく、馴染みのものを置くなど自由に使用していただいている。</p>	<p>居室には仏壇・姿見等、使い慣れた物や観葉植物等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のため、ベッドの代わりに畳に布団を敷いたり、ポータブルトイレや赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>福祉用具など必要に応じ、調達しケガなく安全で生活しやすい環境を整えている。今後も必要に応じていく。</p>		

V アウトカム項目(高陽①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全事業所共通理念、ユニット間での理念を掲げ、入居者それぞれの意向を尊重し、定期的に職員間で確認し個別ケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩やドライブ時、近隣の方や飲食店の方と交流がはかられている。民生委員の方との面識もでき、みこしの際もホームへよってくださったり、防災時の連絡表なども作成している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所発信ではなかなか出来ていない状況だが、認知症サポーターメイド、認知症ケア専門士保有職員がおり、依頼があれば対応も検討可能。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出席者の方からの意見・助言を伺い、サービス、運営に反映できる事は取り入れている。敬老会、近所の秋祭り、とんど祭りに声をかけて頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事故報告、困難事例、苦情対応などあった際には相談などしている。情報共有、協力体制等、今後も維持して行く予定。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議時の内部研修や、委員会実施にて、ホーム全体で、検討、周知、共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	記録や事故報告書等での確認、日々のケアでの気付き、内部研修など、職員間で共有しながら業務へ当たっている。又職員間で、話しやすい環境を作り等にも、配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	任意後見を利用されている方はおられる状況、後見人の方との関係、又、内部研修を通じて学ぶ機会へ繋げていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、家族へ十分な説明を行い、希望、質問などにもお答えしている。また、改定事項あればその都度電話等での説明、文書での承諾を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に意見、要望、苦情などの窓口の説明を行っており、面会時やケアプランの更新の際にも要望等について伺うようにしたり、本社よりアンケートも実施している。アンケートについては本社でまとめた文章をカンファレンスの場で、職員全体で共有、周知している。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や日常業務中の中で、スタッフの要望や意見等を聞き入れ、対応可能な範囲で改善し検討している。又個人で話しやすいよう、必要に応じて面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	基本給のベースアップを実施や研修制度や労働条件など少しずつ進歩している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部、外部問わず研修参加への促し、希望者への研修機会提供等を行っている。受講者が持ち帰ったスキル、知識を生かせるよう会議や日々のケアの中で、情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ内での内部研修等の機会に交流を図り、各事業所間での交流を図っている。又研修のみではなく希望があれば管理者の紹介等で、個別の事業所見学の機会も設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人はもとより、家族や関係者の方からも情報を伺い、ニーズに沿ったスムーズな入居へと繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の面談の際、またはサービス計画更新の際に、当ホームへ来所が困難な遠方の家族へも、電話やSNSを活用しながら状況の説明を行い不安を軽減出来るように対応し、今後の要望も聞きサービスの実行に移している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは、集団での生活となるホームの環境に慣れていただくことから始め、生活のご様子を観察しながら個別対応に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「顔見知り」の関係を築く事により信頼関係と、安心感を持って頂き、身体及び認知機能の維持に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の状況にもよるが、本人と一緒に外出や、病院受診等にも同行して頂く事により、ご本人の様子を感じていただき、家族としての絆が保たれる対応も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の面会するなど、制限することなく維持できるよう家族とも協力を取れている。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の「馴染みの関係」や本人が安心出来る「生活の場」である事に配慮しながらケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後もご本人の次の施設が見つかるまで紹介を行ったり、相談を受けたりと対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	BPSD発生時や困難な場合等、職員間での連携、場合によっては家族とも相談し対応している。一人一人の生活時間に可能な限り合わせられるよう、心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に知り得た情報は、職員がいつでも確認出来る場所に保管し、本人の把握に努めている。又、家族や知人の面会時からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の状況に合わせ随時、環境、生活の過ごし方も検討、変更している。又必要に応じてご家族や、協力医療機関とも相談、情報共有しながら、ケアに反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	プラン作成、変更時は可能な範囲、ご家族ともお話をし改めて希望、意向をお伺いしプランを作成、同意を得るようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化、対応など申し送りを活用し対応している、また計画作成にも現在の状態、対応も含め検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域サークルへの参加、歯科往診、傾聴ボランティア等も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の現在の状況、家庭環境等も考慮しお互いが協力しながら対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際、協力医療機関への主治医の変更をお願いしているが、家族の希望があればそのままの主治医で対応している。また、緊急時の受け入れ希望など主治医に伝え可能な範囲反映している。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約を継続し必要に応じて協力、相談、情報交換出来ている。又、職員含め、安心出来る体制作りが行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連携にて、スムーズな入退院を行えるように配慮している。必要に応じてカンファレンス等にも参加し情報共有をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時の説明以外でも、必要に応じて家族とも相談、連絡等行えている。訪問診療時での変化を、面会時またその都度、ご家族に伝えられている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全スタッフが研修、勉強会で学べるような体制作りを検討している。又受講したスタッフが会議やミーティング等で知識、技術が共有出来る機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣住民協力のもとでの合同避難訓練を含めて、年2回実施している。実際に、避難先である小学校へも入居者の方と一緒に伺い、確認する取り組みも、自発的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者各々の性格や状態も含め、不快のない理解のしやすい声掛けやケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の訴えや希望を可能な範囲で対応できるよう心がけ実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の思いを訴えることができる方については、希望を出された際にはできるだけ対応している。また、身体的な介助が多い方でも、なるべく負担なく、普通の生活を行えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧や衣類に関しても、以前からの習慣を継続出来る様配慮し本人の意向も反映するようにしている。そうされる行動を職員が賛美することにより、日々の生活に張りを与えていると感じている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在は外注からの食事が中心となっているが、盛り付けや、野菜の下処理、準備、片付けは、通常職員と一緒にやっている。月に数回手作りの日もあり、希望を取り入れたメニューも心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>主食、副食の形態、量など状況をみながら提供している。また、個々の習慣、嗜好も配慮し、個別食なども対応している。水分補給は全入居者の一日の水分量を調べ記録し少ない方への対応を心がけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔ケアは1日3回実施し、口腔内の磨き残しの確認等をスタッフが行っている。訪問歯科受診も必要な方は受けて頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>随時、また定時の排泄誘導を前後の排泄状態を考慮しながら行っている。またパットなども状況によって変更している。また、なるべく排泄用品も使わないよう検討、変更している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>乳製品や水分の摂取、体操など、水分、運動ができるよう個々への便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>なるべく入浴をスムーズに受け入れていただけるよう声掛けや誘導にも工夫している。また、利用者からの希望あれば予定日以外での入浴や、通常午後から入浴を行っているが、必要に応じて午前でも可能な範囲実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	特に夜間は柔軟性を持って関わり、 安心していただけるよう臨機応変 に対処している。また、内服も可 能な範囲使わず一定期間は様子 をみるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬状況がわかるようファイル に閉じスタッフがいつでも確認 できるようにしている。また、 服薬の変更、その後の状態の 変化の観察を申し送りにて伝 え、ドクターとも連携して対応 している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生活歴や日常の会話、家族との 会話の中から得た情報を活かし、 個別に外出場所も変更している。 職歴の会話の中から、ご本人 の役割を見出し、支援し実行 している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	全ての思いに配慮できないが、 当日体制的に可能であれば、 ドライブや散歩、買い物、家 族と相談し外泊、自宅への帰 省、野球観戦なども行ってい る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように 支援している。	基本的には所持されていない が、金銭に対する思いが強い 方などは少額を持って頂き、 精神的に安定していただける よう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目(高陽②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族への電話や毎月の通信に利用者からのコメントも入れてもらっている。困難な方は面会の際に日常の会話、エピソード、思いなども伝えるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁画や季節の飾りなど月ごとに換え、環境を変化させて、入居者との会話の広がりを持たせている。またその他の環境面等もシンプルにわかりやすくしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペース以外にもテラスではプランターに花や野菜を一緒に植えたり、収穫したりし、その成長を外気浴を兼ね、のんびり眺めていただいたり、自由に使える和室なども用意し思うように動いていただけるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族へもなるべくご本人にとって馴染みのある物を持ってきていただくようお願いし、それらを含め動線に沿った配置も行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>本人の状態を考慮し、自分で生活動作を思うように行えるよう、物の位置には特に安全であるように配慮している。</p>		

V アウトカム項目(高陽②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・高陽

作成日 令和元年12月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活発化と情報の報告、開示が出来ていない。	家族参加と情報の報告、開示ができる。	来年度より家族参加の促し強化と、不参加家族へは定期的に会議議事の回覧報告を行ってみる。	1年
2	12	職員の定着率の増加。	年間を通じ職員体制が維持でき安定運営ができる。	職員の学び働きやすい職場環境の整備（研修、労働内容、要望の吸い上げ）が行える。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。